

子供とお年寄りがお互いに助け合い一緒に過ごせる施設の設置

原町高校 1年 鈴木 凜々杏

- 少子高齢化、地域コミュニティの減少により、地域での関わりが減少傾向にある
- 子供の数は徐々に増加しているものの、保育士等の確保が難しくなっている
- 開園している施設での受入数の減少につながっている一方で、働くことを希望する女性が増えることで待機児童が発生している



**子供とお年寄りの交流の場を設置し、みんなが住みやすい南相馬市にする**

## 高校生から幼児までの子供とお年寄りが交流できる施設を作る

### ■ 利用者

- ・ 孫や家族のいないお年寄りの方や、老人ホームを使用しているお年寄りの方
- ・ 仕事で子供の面倒を見れない人や、実家が遠く、急な用事などの子供を預けなければならない人、核家族で祖父母がいない家庭など
- ・ 幼児や小さな子供、お年寄りの方と交流したい中高生

### ■ 子供を施設に預け、お年寄りの方に子供の面倒を見てもらうことができる

### ■ お年寄りだけではなく子どもに関わりたい中高生も子供の面倒をみる

### ■ 主な活動は、勉強をしたり、運動したり、季節の行事をしたり、食事やおやつを食べたり、コミュニケーションをとることなど

お年寄り：子供と関わり過ごすことができ、生きがいを持つようになる、リハビリの効果もある

子供：お年寄りの方や学年の違う子供と関わることで、新しい知識を得たり、相手を思う気持ちが育まれる

子供を持つ親：施設を気軽に使用でき、仕事に集中ができる。